



思い出をくれた神社 みんなが集まれる場所に

profile

昭和58年3月28日生まれ。月浦在住。茨城県出身。39歳。趣味は格闘技鑑賞。

Spotlight

スポットライト



月浦八幡神社の修繕プロジェクトを開始

永井 愛さん

月浦の森の中にたたずむ月浦八幡神社。建立から120年以上が経ちますが、境内で催されるお祭りなどには今も多くの人を訪れます。長年の風雨で傷んだ神社を守ろうと立ちあがったのが、gla | gla (グラグラ) のガラス作家、永井愛さん。今夏から「SAVE月浦八幡神社プロジェクト」を始め、地元で愛されてきた神社のために奔走しています。

茨城県出身の永井さんが月浦に引っ越したのは12年ほど前。実家近くのガラス工房で作品作りを学んでいた頃にグラグラを知り、経験を積もうと単身飛び込みました。何のゆかりも無い土地で、地域に溶け込むきっかけをくれたのが月浦八幡神社でした。秋の伝統行事、月浦獅子舞を奉納した後は打ち上げを楽しみ、世代や性別に関係なく住民と打ち解けました。自身でプロデューサーを務め、ガラス製品や手作り雑貨を販

売する「gla | gla フェス」は境内で行い、道内外の人との出会いがありました。そんな愛着あふれる神社ですが、今年2月の大雪で屋根の一部がはがれて木材が腐食。梁も落ちてしまい「次の冬は越せない状態」（永井さん）となってしまいました。特に傷みが激しい部分の修繕費80万円を捻出するため、SAVE月浦八幡神社プロジェクトを立ち上げ、神社のお守りやタオル、御朱印などを今夏のgla | gla フェスで販売。さい銭や出店者からの寄付も集まり、わずか一日で目標額を達成できました。「思い出深く、お世話になっている場所。ここがなければフェスも続けられませんでした」と感謝する永井さん。今回直せなかった屋根やその他の損傷箇所もあり、プロジェクトは継続します。「直したら終わりではないので続けていかないと意味がありません。いろんな人に立ち寄ってもらえたらうれしいです」と意気込んでいます。

東奔西走

コロナ禍により3年ぶりの開催となったサマーフェスタ2022 in 洞爺湖。大人気の登別伊達時代村による「忍者ショー」や縄文勾玉づくり体験などさまざまなイベントが行われ、訪れた人たちは大いに盛り上がっていました。(M.O)

町民を紹介する本誌の「Spot light」。町外からの移住者やUターンの人を取材しましたが地域貢献に熱心な人も多く、仕事やスキルを地元のために生かす行動力にいつも驚かされます。誌面からその熱意が少しでも伝わればと願っています。(D.Y)

NEW 宝くじ

すぐ買える 当たりがわかる クイックワン

宝くじ 公式サイト

Quick One クイックワン

宝くじの収益金は私たちの国の公共事業等に還元されています。

宝くじの収益金は私たちの国の公共事業等に還元されています。

宝くじ公式サイトで発売中！
宝くじ公式サイト <https://www.tokai-jp/official/>

宝くじ公式サイト <https://www.tokai-jp/official/>